

Oracle Commerce Guided Search

Glossary

Version 11.1 • June 2014



著作権および免責事項

Copyright © 2003, 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

Oracleのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracleサポート・サービスでは、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

A

Access Control List (アクセス・コントロール・リスト)

「Endeca Access Control List (Endeca Access Control List)」を参照してください。

Access Control System (アクセス・コントロール・システム)

「Endeca Access Control System (Endecaアクセス・コントロール・システム)」を参照してください。

Analytics API (分析API)

「Endeca Analytics API (Endeca分析API)」を参照してください。

ancestors (祖先)

ナビゲーション記述子(ディメンション・ツリー内の現在の位置)とディメンション・ルート(ディメンション・ツリーの最初)の間のディメンション値です。厳密には親も祖先ですが、一般的にこの用語はディメンション・ツリーの親より上位の値に対して使用します。「child dimension value (子ディメンション値)」および「parent dimension value (親ディメンション値)」も参照してください。

aggregated Endeca record (集計Endecaレコード)

ディメンションまたはプロパティによってグループ化されてシングル・レコードとして扱われる複数のEndecaレコードです。集計Endecaレコードは、データ表示における重複の影響を最小化するためによく使用されます。

「Endeca record (Endecaレコード)」を参照してください。

aggregated record query (集計レコード問合せ)

集計レコード問合せは、MDEXエンジンから単一の集計レコードを取得するために使用する問合せです。

Application Controller (アプリケーション・コントローラ)

「Endeca Application Controller (Endecaアプリケーション・コントローラ)」を参照してください。

Assembler (アセンブラ)

Oracle Commerceアセンブラでは、ユーザーのナビゲーション状況またはその他のトリガーに基づいて、Webアプリケーションで外部データソースを問い合わせることができます。アセンブラは、コンテンツ管理者が指定したページ構成をカプセル化したコンテンツ項目オブジェクトを返します。スポットライティングまたはマーチャンダイジングに必要な追加問合せの結果など、ページのすべてのコンテンツがコンテンツ項目オブジェクトにラップされて、アプリケーション・レイヤーでサブ問合せを管理する必要が減るため、フロントエンド・アプリケーションのロジックが簡単になります。

アセンブラの配布物には、MDEXエンジンの問合せをサポートするガイド付きナビゲーションJARファイルが含まれていますが、ユーザーがアセンブラを拡張して他の必要なデータ・ソースとやりとりすることもできます。

B

base SSL (基本SSL)

「SSL」を参照してください。

baseline update (ベースライン更新)

ベースライン更新(完全更新とも呼ばれる)では、データセット全体の完全な再索引付けが行われます。ベースライン更新では、データセット全体に対する更新プロセスが実行されます。

ベースライン更新パイプラインでは、レコード、ディメンション、ディメンション値およびプロパティを追加、変更または削除できます。さらに、ディメンションの順序変更やストップワードの変更などの構成変更には、ベースライン更新が必要です。

ベースライン更新は夜間に実行でき、この方法を更新戦略として使用することもできます。小規模から中規模のデータセットの場合は、数分間隔程度の頻度でベースライン更新を実行できます。別の方法として、部分更新で実行できる変更に対しては部分更新を必要な回数実行し、ベースライン更新が必要な変更に対してはベースライン更新を定期的に行うこともできます。

C

cartridge (カートリッジ)

カートリッジは、コンテンツ管理者がエクスペリエンス・マネージャを使用して動的ページに配置できる機能コンポーネントです。カートリッジの例としては、ガイド付きナビゲーション・カートリッジ、結果リスト・カートリッジ、回転バナー・カートリッジなどがあります。カートリッジは、次のいくつかの部分で構成されています。

- エクスペリエンス・マネージャのコンテンツ構造および編集インタフェースを定義する構成ファイル(XMLテンプレート)
- コンテンツ管理者がカートリッジ・コンテンツを構成できる0個以上のエクスペリエンス・マネージャ・エディタ
- アプリケーションに結果を返す前に、追加の問合せ処理を実行するための1個以上のコンテンツ・アセンブラ・タグ・ハンドラ
- Webアプリケーションにコンテンツを表示するためのレンダリング・コード

CAS Console for Oracle Commerce Workbench (Oracle Commerceワークベンチ用CASコンソール)

Oracle Commerceワークベンチ用CASコンソールは、ファイル・システム、コンテンツ管理システム、およびカスタム・データ・ソース拡張機能などの様々なデータ・ソースをクロールするために使用するWebベースのアプリケーションです。CASコンソールは、コンテンツ収集システムのインストール中にOracle Commerce Workbenchの拡張機能としてインストールされます。

CAS Server (CASサーバー)

ファイル・システムおよびCMSクロールを管理してソース・データを収集するコンテンツ収集システムのコンポーネントです。クロールの出力は、デベロッパー・スタジオのプロジェクトで使用する一連のEndecaレコードです。

CAS Service (CASサービス)

CASサービスは、CASサーバー、コンポーネント・インスタンス・マネージャ、および任意の数のレコード・ストア・インスタンス(データ・ソース当たり1つ)を実行するサブレット・コンテナです。

certificate (証明書)

すべてのGuided SearchのクライアントとサーバーでSSLを使用する際にIDを指定するために使用するセキュリティ・ファイルです。Endeca enecertsユーティリティが作成する証明書で、証明書の所有者、およびSSL対応のコンポーネント間で交換されるデータを暗号化および復号化するために使用する公開鍵に関する情報が含まれています。証明書ファイルは、Guided SearchシステムのID、またはすべてのコンポーネントのIDと考えることができます。

certificate authority file (認証局ファイル)

相互認証SSL用に構成されたGuided Searchシステムで使用するセキュリティ・ファイルです。Endeca enecertsユーティリティで作成した認証局(CA)ファイルは、すべてのGuided Searchのクライアントとサーバーが通信チャネルの他方のエンドポイントを認証するために使用します。

Charting API (チャート作成API)

「Endeca Charting API (Endecaチャート作成API)」を参照してください。

child dimension value (子ディメンション値)

サブディメンション値は子ディメンション値と呼ばれます。子ディメンション値は常に親ディメンション値よりも特化されているため、ユーザーがナビゲーション問合せを絞り込むのに役立ちます。ディメンション値には複数の子の値がある場合があります。これらの値で問合せ結果を絞り込むため、子ディメンション値は絞込み値または絞込みと呼ばれることもあります。「parent dimension value (親ディメンション値)」も参照してください。

Cluster Discovery (クラスタ・ディスカバリ)

「Endeca Cluster Discovery (Endecaクラスタ・ディスカバリ)」を参照してください。

collapsible dimension hierarchy (縮小可能なディメンション階層)

一部またはすべての内部(ルートでなく、リーフでもない)ディメンション値に縮小可能なフラグが付いているディメンション階層です。絞込みに使用できるリーフが数個のみの場合、MDEXエンジンはこれらのディメンション値を自動的に削除または縮小して、より効率的で使いやすいナビゲーション操作ができるようにします。

Component Instance Manager (コンポーネント・インスタンス・マネージャ)

コンポーネント・インスタンス・マネージャはレコード・ストア・インスタンスを管理します。管理とは、すべてのレコード・ストア・インスタンスの作成、削除および表示をコンポーネント・インスタンス・マネージャが担当するという意味です。

compound dimension query (複合ディメンション問合せ)

1つ以上のディメンション値(より厳密にはディメンション値ID)の組合せのことです。複合ディメンション問合せは、含まれるすべてのディメンション値の交点を表す一連のレコードを返すようにMDEXエンジンに指示します。

Content Acquisition System (コンテンツ収集システム)

コンテンツ収集システムは、Guided Searchアプリケーションで使用するためにデータ・ソースを追加、構成およびクロールする一連のコンポーネントで構成されています。データ・ソースには、ファイルシステム、コンテンツ管理システムのクロール、Webサーバーおよびカスタム・データ・ソースが含まれます。コンテンツ収集システムはデータ・ソースをクロールし、文書およびファイルをEndecaレコードに変換して、Guided Searchパイプラインで使用するために保存します。

D

Data Foundry (データ・ファウンダリ)

「Information Transformation Layer (インフォメーション・トランスフォーメーション・レイヤー)」を参照してください。

data pipeline (データ・パイプライン)

デベロッパー・スタジオに表示されるデータ・パイプラインには、Endecaインフォメーション・トランスフォーメーション・レイヤーがソース・データをタグ付きEndecaレコードに変換する方法がグラフィック表示されます。

data pipeline component (データ・パイプライン・コンポーネント)

パイプラインはコンポーネントの集合体です。各コンポーネントは、ソース・データをEndecaレコードに変換する際に、データのロード、プロパティの標準化、ディメンション値によるレコードのタグ付けなどの特定の機能を実行します。コンポーネントは相互参照によってリンクされて、順次フローおよびパイプラインの雰囲気を実現されます。

dead end query (デッド・エンド問合せ)

ナビゲーション問合せのすべてのディメンション値の間に共通レコードの交点が存在しない場合、その問合せはデッド・エンド問合せと見なされます。MDEXエンジンでは、問合せ結果に返される後続の問合せ情報の構造を調整することにより、そのようなデッド・エンド問合せが自動的に除去されます。「Guided Navigation (ガイド付きナビゲーション)」も参照してください。

delta update (デルタ更新)

ソース・データの小さな抽出部分(追加、更新または削除されたソース・レコードのみ)を以前のベースライン更新の出力と結合して実行される、ベースライン更新と同様の完全なベースライン索引付けのことです。デルタ更新は、ソース・データ・リポジトリのロードおよびデータの抽出に必要な時間を減らす必要がある場合に最適です。

「partial update (部分更新)」 および 「baseline update (ベースライン更新)」 も参照してください。

Deployment Template (配置テンプレート)

配置テンプレートは、Endecaアプリケーション・コントローラ (EAC: Endeca Application Controller)の制御スクリプト、構成ファイル、および共通スクリプトの機能をラップするバッチ・ファイルまたはシェル・スクリプトを含む、配置に必要な完全なディレクトリ構造を備えた新しいEndecaアプリケーションを作成するために実行するユーティリティです。

deprecated (非推奨)

非推奨とは、項目(プラットフォーム、機能、フラグなど)は以前のリリースと同様に完全にサポートされていますが、オラクル社が今後のリリースでサポートを廃止する予定であるという意味です。

descriptor (記述子)

「dimension descriptor (ディメンション記述子)」および「navigation descriptor (ナビゲーション記述子)」を参照してください。

Developer Studio (デベロッパー・スタジオ)

パイプライン・コンポーネント、Endecaのプロパティ、ディメンション、優先順位ルール、動的ビジネス・ルール、ユーザー・プロファイルなど、インスタンス構成のすべての面を定義するために使用するWindowsアプリケーションです。デベロッパー・スタジオでは、インスタンス構成をサポートするXMLファイルへのポインタが格納された、.esp拡張子が付いたプロジェクト・ファイルを使用します。「Oracle Commerce Workbench (Oracle Commerce Workbench)」も参照してください。

Dgidx (Dgidx)

タグ付きEndecaレコードに索引付けして、MDEXエンジン形式の索引を作成するプログラムの名前です。

Dgraph (Dgraph)

MDEXエンジンを起動するプログラムの名前です。1つのコンピュータで複数のDgraphプロセスを実行できます。

Dgraph Cluster (Dgraph クラスタ)

配置テンプレート・ユーティリティによってインストールされたアプリケーションの構成内でDgraph クラスタを使用すると、多数のDgraphに手動で処理を反復するかわりに、Dgraphのクラスタ全体に処理を適用できます。Dgraph クラスタには、Dgraph再起動戦略に関するロジックも含まれています。

differential crawl (差分クロール)

「incremental crawl (増分クロール)」を参照してください。

dimension (ディメンション)

関連するディメンション値のコレクションのことで、最上位にディメンション・ルートがあるナビゲート可能なツリーに編成されています。「externally created dimension (外部作成ディメンション)」および「externally managed dimension (外部管理ディメンション)」も参照してください。

dimension adapter (ディメンション・アダプタ)

ディメンション情報をロードするパイプライン・コンポーネントです。ディメンション・アダプタはXMLまたはデリミタ付き形式でディメンション情報をロードできます。

dimension descriptor (ディメンション記述子)

一連の問合せ結果を生成するためにナビゲーション問合せで使用されたディメンションのことです。すべての記述子ディメンションには、1つ以上の記述子(ディメンション値)が関連付けられています。記述子ディメンションには、索引レコードを絞り込んで現在の問合せ結果を作成するために使用したディメンション値にアクセスするハンドルが用意されています。「navigation descriptor (ナビゲーション記述子)」も参照してください。

dimension group (ディメンション・グループ)

ディメンションを編成するために使用する、ディメンションの暗黙または明示的なグループ分けです。ユーザーが定義する明示的なグループ分け(通常は複数のディメンションが含まれます)に含まれない各ディメンションには、1つのディメンションのみで構成される暗黙のグループが自動的に生成されます。

dimension hierarchy (ディメンション階層)

最上位のディメンション・ルートおよびその下位に関連するディメンション値がある論理ツリー構造です(物理構造ではありません)。ディメンション階層では、ナビゲート時にユーザーに表示される今後の選択肢全般を制御できます。「parent dimension value (親ディメンション値)」および「child dimension value (子ディメンション値)」も参照してください。

dimension root (ディメンション・ルート)

ディメンション・ツリーの最初のディメンション値です。一般にディメンション・ルートには、最初の子ディメンションと同じ名前とIDが設定されています。

dimension search (ディメンション検索)

ユーザーが指定した用語を含む名前があるすべてのディメンション値を検索する検索です。ディメンション検索の結果は、ディメンション別に編成された一連のディメンション値です。

dimension server (ディメンション・サーバー)

ディメンション・サーバーはディメンション・アダプタとともに動作して、他のすべてのパイプライン・コンポーネントのディメンション情報の中央集中型ソースとして機能します。

dimension value (ディメンション値)

データセットのレコードを分類するためにタグまたはラベルとして使用されるディメンションのメンバーです。レコードをディメンション値でタグ付けすると、ディメンション値をユーザーが問い合わせる際に、そのレコードが有効な結果として識別されます。ディメンション値は自動生成することも、明示的に定義することも、Stratifyなどの外部タクソノミ・システムからインポートすることもできます。

dynamic ranking (動的ランキング)

MDEXエンジンのデフォルトのアルファベット順ではなく、データセット内に出現する頻度に従ってディメンション値の順序を決定することです。動的ランキングは大規模なデータセットで特に便利です。

E

Endeca (Endeca)

Guided Searchの古い名前です。Endecaという名前は、インストール・パスやAPIなどソフトウェアの多くの場所で使用されており、文書の一部でも使用されています。これはGuided Searchと同じ意味です。

Endeca Access Control List (Endecaアクセス・コントロール・リスト)

レコードを表示する権限などのグループおよびユーザーの権限をリストするEndecaレコードのプロパティのことです。Endecaアクセス・コントロール・システムを使用する実装では、MDEXエンジンがEndeca ACLプロパティを読み取り、ユーザー権限付与フィルタを使用して、問合せを実行したユーザーにレコードを表示する権限があるかどうか決定されます。

Endeca Access Control System (Endecaアクセス・コントロール・システム)

外部ディレクトリ(LDAPディレクトリなど)でユーザーのIDを認証して、ユーザーに表示が許可されているレコードのみにアクセスを制限するユーザー権限付与フィルタを作成するセキュリティ・インフラストラクチャのことです。実際の認証を実行するために1つ以上のログイン・モジュールが構成されます。「file-based login module (ファイルベースのログイン・モジュール)」、「LDAP login module (LDAPログイン・モジュール)」および「user entitlement filter (ユーザー権限付与フィルタ)」も参照してください。

Endeca Analytics API (Endeca分析API)

Endeca分析で使用できる分析APIは、EndecaプレゼンテーションAPIを拡張したもので、インタラクティブ・アプリケーションを使用するユーザーが、ガイド付きナビゲーションのインターフェースを使用して情報の集計ビューや統計ビューの内容を表示できるようになっています。「Endeca Presentation API (EndecaプレゼンテーションAPI)」も参照してください。

Endeca Analytics module (Endeca分析モジュール)

Endeca分析はEndeca MDEXエンジンのコア機能上に作成されており、トレンド、統計、分析の可視化、比較など、すべての集計情報をガイド付きナビゲーションのインターフェースで確認できるようになっています。

Endeca APIs (Endeca API)

Guided Search実装へのインタフェースを提供するプレゼンテーションAPI、ロギングAPI、フォージAPIなどのAPIのコレクションです。

Endeca Application Controller (Endecaアプリケーション・コントローラ)

Endecaアプリケーション・コントローラは、Guided Searchの実装を制御、管理および監視するために使用するインタフェースです。Guided Searchプロジェクトを設計から配置および実行までサポートするインフラストラクチャを提供します。これはEndecaツール(デベロッパー・スタジオ、Oracle Commerce Workbench)の大部分に影響を与えずにControl Interpreterを代替するインタフェースです。

Endeca CAS Extension API (Endeca CAS拡張API)

CAS拡張APIには、データ・ソースやマニピュレータなどのコンテンツ収集システムの拡張機能を作成するためのインタフェースおよびクラスが用意されています。拡張機能の開発者は拡張機能をJARにパッケージ化し、CASアプリケーションの開発者はそのJARおよび追加のJAR(サードパーティの依存関係用)をコンテンツ収集システムにインストールします。インストールした後は、CASコンソール、CASサーバーAPIおよびCASサーバー・コマンドライン・ユーティリティを使用して拡張機能の使用および構成が可能になります。

Endeca Charting API (Endecaチャート作成API)

Endeca分析で使用できるチャート作成APIでは、EndecaプレゼンテーションAPIを拡張してEndeca Analyticsの結果をグラフィック表示できるようにしています。「Endeca Presentation API (EndecaプレゼンテーションAPI)」も参照してください。

Endeca Cluster Discovery (Endecaクラスタ・ディスカバリ)

用語ディスカバリが作成した顕著な用語を使用して、関係性がないレコード・セットと関係性があるレコード・セットを表すグループにクラスタ化するMDEXエンジンの機能です。これらのクラスタは、エンド・ユーザーがGuided Search問合せを絞り込んだり、広げたりするのと同じように直感的な方法として利用されます。

Endeca Data Foundry (Endecaデータ・ファウンドリ)

様々なソースからの情報を集計しEndecaレコードに変換して、MDEXエンジンで使用する索引を作成するインフォメーション・トランスフォーメーション・レイヤーのコンポーネントです。

Endeca HTTP Service (Endeca HTTPサービス)

Endeca HTTPサービスは、Endecaアプリケーション・コントローラを実行するアプリケーション・サーバーです。

Endeca Information Transformation Layer (Endecaインフォメーション・トランスフォーメーション・レイヤー)


Endecaインフォメーション・トランスフォーメーション・レイヤー(ITL)は、ソース・データを読み取ってMDEXエンジンの索引に変換するOracle Commerce Guided Searchのコンポーネントです。このコンポーネントはコンテンツ収集システム、フォージおよび索引付けプロセスで構成されています。ITLコンポーネントはビジネス・ニーズに適切な間隔で実行するオフライン・プロセスです。

Endeca Logging and Reporting System (Endecaロギングおよびレポート作成システム)

Endecaロギングおよびレポート作成システムには、スタンドアロンのロギング・サーバーを使用するアプリケーション・レベルのロギング・ソリューションが用意されています。「Logging API (ロギングAPI)」、「Log Server (ログ・サーバー)」および「Report Generator (レポート・ジェネレータ)」も参照してください。

Endeca Presentation API (EndecaプレゼンテーションAPI)

クライアント・ブラウザとMDEXエンジンの間のインタフェースです。Endeca APIは、クライアントからデータをアクセス可能にするためには、Webまたはアプリケーション・サーバー上でオンラインで使用可能にしておく必要があります。

 注: 新しいフロントエンド・アプリケーションの開発には、プレゼンテーションAPIではなく、アセンブラAPIを使用することをお勧めします。

「Endeca API (Endeca API)」も参照してください。

Endeca record (Endecaレコード)

Guided Searchアプリケーションでユーザーがナビゲートしようとする個々の用語のことです。通常、Endecaレコードはソース・データベースの従来のレコードに対応しています。ただし、Endecaレコードはソース・レコードとは異なり、一貫性を持たせるために標準化されて、ディメンション値で分類されています。Endecaレコードはパイプライン開発プロセスの主な結果として作成されます。

Endeca Record Store (Endecaレコード・ストア)

Endecaレコード・ストアには、ベースライン更新および増分更新のために後からフォージでアクセスできる何世代ものレコードを永続的に保存できます。CASサーバーは各データ・ソースのクローल出力を一意的レコード・ストア・インスタンスに書き込みます。

Endeca Relationship Discovery (Endeca関連ディスカバリ)

Endeca用語ディスカバリとEndecaクラスタ・ディスカバリを含むOracle Commerce Guided Searchのオプション機能です。この機能では、ユーザーがレコードから顕著な用語を抽出し、それらの用語を使用して関連レコードのセット(クラスタ)を作成することにより、ソース・データ・レコード内の関係を発見できます。

Endeca Term Discovery (Endeca用語ディスカバリ)

顕著な名詞句(用語)を文書から識別して抽出し、関連するレコードに用語をタグ付けするインフォメーション・トランスフォーメーション・レイヤーの機能です。自然言語処理および統計的推測によって識別された用語は、コーパスおよび個別レコードの両方で重要な単語または単語グループです。これらの用語はアプリケーションのフロント・エンドに表示されて、ユーザーが問合せを絞り込んだり広げたりできるようになります。

Endeca Tools Service (Endecaツール・サービス)

Endecaツール・サービスはOracle Commerce Workbenchを実行するアプリケーション・サーバーです。

Endeca Web Crawler (Endecaウェブクローラー)

HTTPおよびHTTPSのWebサイトをクロールしてソース・データを収集し、デベロッパー・スタジオ・プロジェクトで使用するためのEndecaレコードを出力する、コンテンツ収集システムのコンポーネントです。

Experience Manager Editor SDK (エクスペリエンス・マネージャ・エディタSDK)

エクスペリエンス・マネージャ・エディタSDKでは、アプリケーション開発者がカスタム・エディタを介して新しい機能をエクスペリエンス・マネージャに導入できます。SDKはエクスペリエンス・マネージャ・エディタAPI、サンプル・エディタ・プロジェクトおよび関連文書で構成されています。

Experience Manager (エクスペリエンス・マネージャ)

エクスペリエンス・マネージャはリッチでダイナミックなランディング・ページをすばやく作成できる強力なテンプレート・ベースのツールです。エクスペリエンス・マネージャでは、IT部門の支援なしに、マーチャンダイザおよびコンテンツ管理者がサイトのコンテンツをこれまで以上によく管理できるようになります。

expression (式)

関数の場合と同様に、式の場合もフォージ・プログラムに対して、影響を与えるレコード、プロパティまたはディメンションと、どのように影響するかを示します。「Forge (フォージ)」も参照してください。

externally created dimension (外部作成ディメンション)

デベロッパー・スタジオ以外で、ソース形式から Guided Search 互換 XML に変換されたデータセットの論理階層のことです。ディメンションの論理階層のデータ階層の記述が、Guided Search の外部インタフェースに準拠していないと、ディメンションをプロジェクトにインポートできません。

externally managed dimension (外部管理ディメンション)

サードパーティ・ツールを使用して作成および管理されているデータセットの論理階層のことです。外部管理されているタクソノミをデベロッパー・スタジオのプロジェクトに含めると、作成したサードパーティ・ツールで階層が管理されるディメンションになります。デベロッパー・スタジオでは、ディメンション値を追加または削除できません。ディメンションまたはディメンション値を変更する必要がある場合は、サードパーティ・ツールを使用してタクソノミを編集してから、プロジェクトのタクソノミを更新する必要があります。

F

file-based login module (ファイルベースのログイン・モジュール)

ユーザーのIDおよびグループのメンバーシップをローカル・ディレクトリ・ファイルの情報で認証するEndecaアクセス・コントロール・システムのコンポーネントです。

filter (フィルタ)

問合せが返せる内容を制限する問合せ設定のことです。「[dimension search \(ディメンション検索\)](#)」、「[record search \(レコード検索\)](#)」および「[user entitlement filter \(ユーザー権限付与フィルタ\)](#)」も参照してください。

flat dimension (フラット・ディメンション)

ディメンション・ルートの下に1レベルの階層のみがあるディメンションです。「[dimension hierarchy \(ディメンション階層\)](#)」も参照してください。

Forge (フォージ)

ソース・データ・レコードまたは文書进行处理してタグ付きEndecaレコードにするデータ・ファウンダリのコンポーネントです。

full crawl (完全クロール)

アクセスするように構成されているすべてのソース文書をCASが取得するクロールのことです。「[incremental crawl \(増分クロール\)](#)」も参照してください。

full update (完全更新)

「[baseline update \(ベースライン更新\)](#)」を参照してください。

G

Guided Navigation (ガイド付きナビゲーション)

ガイド付きナビゲーションは、ユーザーに提示される有効な後続の絞込み選択肢です。ガイド付きナビゲーションとは、無効な絞込み問合せ、つまりデッド・エンドを選択肢から排除することとも考えられます。

Guided Search application (Guided Searchアプリケーション)

Guided Search実装のエンド・ユーザー向けの部分です。

Guided Search implementation (Guided Search実装)

Guided Searchインスタンス(バックエンド)、Guided Searchアプリケーション(フロントエンド)およびリソース・コレクションに含まれているマシンで構成されるGuided Searchシステム全体のことです。「Guided Search instance (Guided Searchインスタンス)」、「Guided Search application (Guided Searchアプリケーション)」および「resource collection (リソース・コレクション)」も参照してください。

Guided Search instance (Guided Searchインスタンス)

エンド・ユーザーからは見えない、Guided Search実装のバックエンドのことです。通常は、デベロッパー・スタジオのプロジェクト・ファイルおよびシステム構成ファイルが含まれます。

Guided Search system (Guided Searchシステム)

「Guided Search implementation (Guided Search実装)」を参照してください。

H

hidden dimension (非表示ディメンション)

Guided Searchアプリケーションからアクセスできないディメンションのことです。デベロッパー・スタジオのディメンション・エディタでディメンションに非表示マークが付いている場合、MDEXエンジンでは、そのディメンションまたはディメンション値が絞込みオプションとして返されません。非表示ディメンションはユーザー・インタフェースには表示されませんが、これらのディメンションの関連する値には引き続きレコードがタグ付けされています。そのため、ユーザーは非表示ディメンション内のディメンション値に基づいてレコードを検索できます。

hierarchical dimension (階層ディメンション)

「dimension hierarchy (ディメンション階層)」を参照してください。

incremental crawl (増分クロール)

最後のクロール以降に変更されたソース文書のみをCASが取得するクロールのことです。増分クロールは差分クロールとも呼ばれます。「full crawl (完全クロール)」も参照してください。

indexer adapter (インデクサ・アダプタ)

索引付けの準備が完了したデータを保存するパイプライン・コンポーネントです。

inert dimension value (不活性ディメンション値)

ナビゲーション状況に含まれていないディメンション値です。ユーザーが不活性ディメンション値を選択すると、ナビゲーション状況は変更されませんが、そのディメンション値の子が選択用に表示されます。「hidden dimension (非表示ディメンション)」も参照してください。

Information Transformation Layer (インフォメーション・トランスフォーメーション・レイヤー)

「Endeca Information Transformation Layer (Endecaインフォメーション・トランスフォーメーション・レイヤー)」を参照してください。

instance configuration (インスタンス構成)

Guided Search実装のバックエンド・プロセス(フォージ、Dgidx、Dgraph)を構成する一連のプロジェクト・ファイルのことです。

intermediate dimension value (中間ディメンション値)

問合せパラメータは変更しますが、現在のEndecaレコード・セットには影響を与えない、マイナスでないディメンション値です。たとえば、A-D、E-H、I-Lなどがあります。

J

Java manipulator (Java マニピュレータ)

Javaで記述してパイプラインに追加し、レコードを操作できるパイプライン・コンポーネントです。作成するJava マニピュレータはContent Adapter Development Kit (CADK) Java Adapterインタフェース・クラスに準拠している必要があります。Java マニピュレータはソース・レコードおよびEndecaレコードをEndecaインフォメーション・トランスフォーメーション・レイヤーのデータ処理の一部として変換します。たとえば、Endeca用語ディスカバリ機能でソース・レコードから用語を抽出する際にJava マニピュレータを使用して、フィルタリングおよびスコアリングのメカニズムを実現し、関連するEndecaレコードに用語をタグ付けできます。

Join (結合)

結合とは、リレーショナル・データベースの複数の表からレコードを結合することです。Structured Query Language (SQL)には、内部、外部、クロスの3つのタイプの結合があります。外部結合は左外部結合、右外部結合および完全外部結合にさらに分けられます。

K

key properties (キー・プロパティ)

Endeca分析とともに使用できるキー・プロパティは、アプリケーション動作をカスタマイズ可能にするプロパティ・レベルおよびディメンション・レベルのメタデータです。

keyword search (キーワード検索)

ユーザーが指定したテキスト文字列(キーワード)に基づいて結果を返す問合せです。「record search (レコード検索)」および「dimension search (ディメンション検索)」も参照してください。

L

LDAP login module (LDAP ログイン・モジュール)

ユーザーのIDおよびグループのメンバーシップをLightweight Directory Access Protocol (LDAP)ディレクトリで認証するEndecaアクセス・コントロール・システムのコンポーネントです。

leaf dimension value (リーフ・ディメンション値)

ディメンション・ツリーの最下位のディメンション値です。リーフ・ディメンション値には子がありません。「child dimension value (子ディメンション値)」も参照してください。

Log Server (ログ・サーバー)

ログ・サーバーはログ要求をログ・ファイルに変換します。これらのログ・ファイルを使用して、HTMLベースの判読可能なログ・レポートをレポート・ジェネレータで作成できます。ログ要求はロギングAPI経由でアプリケーション・モジュールからログ・サーバーに渡されます。「Logging API (ロギングAPI)」および「Report Generator (レポート・ジェネレータ)」も参照してください。

Logging API (ロギングAPI)

ロギングAPIはGuided Searchアプリケーションのモジュールからログ要求を受け取って、HTTP経由でログ・サーバーに渡します。

M

MDEX Engine (MDEXエンジン)

Oracle Commerce Guided Searchのコアとなる問合せエンジンです。MDEXエンジンはインデクサ(Dgidx) および Dgraphで構成されています。MDEXエンジンには、データ・ファウンダリが生成した索引が保存されます。索引が保存された後、MDEXエンジンは問合せを受け取り、保存済の索引に対して問合せを実行して結果を返します。MDEXエンジンとは、クライアントからデータをアクセス可能にするために常に実行しておく必要があるオンライン・プロセスです。「Endeca API (Endeca API)」も参照してください。

MDEX Engine query request (MDEXエンジン問合せ要求)

MDEXエンジン固有のパラメータを使用するように変更されたクライアント・ブラウザ要求です。問合せの特定のタイプであるナビゲーション問合せと混同しないようにしてください。「navigation query (ナビゲーション問合せ)」も参照してください。

mutually authenticated SSL (相互認証SSL)

「SSL (SSL)」を参照してください。

N

navigation descriptor (ナビゲーション記述子)

MDEXエンジン問合せに指定されているディメンションの特定のディメンション値のことです。ナビゲーション記述子にはディメンション内のユーザーの現在のディメンション値の選択内容が記述されています。これは、そのディメンション・ツリー内のユーザーの現在の場所を示しています。「dimension descriptor (ディメンション記述子)」も参照してください。

navigation query (ナビゲーション問合せ)

ユーザーが選択した特性に基づいて一連のレコードを後続の情報とともに返す問合せです。「record query (レコード問合せ)」も参照してください。

navigation reference (ナビゲーション参照)

ナビゲーション問合せを作成するために使用できるディメンション値のコレクションです。ナビゲーション参照とは、本質的には発生待ちのナビゲーション問合せのことです。

navigation state search query (ナビゲーション状況検索問合せ)

ナビゲーション参照の構成ディメンション値に検索用語すべてと一致する名前がある一連の有効なナビゲーション参照を取得する問合せです。

O

Oracle Commerce Guided Search (Oracle Commerce Guided Search)

ガイド付きナビゲーション・ソリューションが構築されているプラットフォームのことです。Oracle Commerce Guided Searchは、インフォメーション・トランスフォーメーション・レイヤー、MDEXエンジンおよびアセンブラで構成されています。

以前のバージョンのソフトウェアでは、Oracle Commerce Guided SearchがOracle Endeca Commerceと呼ばれていました。文書の一部では、後者の用語が使用されています。これらの用語の意味は同じです。

P

parent dimension value (親ディメンション値)

サブディメンション値があるディメンション値のことです。各ディメンション値に設定できる親値は1つのみです。「child dimension value (子ディメンション値)」および「ancestors (先祖)」も参照してください。

partial update (部分更新)

部分更新とは、MDEXエンジンの再起動が不要なデータセット全般の変更のことです。部分更新では、最後のベースライン更新以降に変更された部分のMDEXエンジン索引のみを更新できます。

部分更新では、多数のソース・データの変更を実装できます。プロジェクト構成を変更する場合は、ベースライン更新を実行します。

ソース・データのみを変更する場合でも、ディクショナリやワイルドカード情報など、データから導出された一部の構成情報が古い情報になる場合があることに注意してください。そのため、ディクショナリを最新状態に保つために、ベースライン更新は定期的に行ってください。

Perl manipulator (Perlマニピュレータ)

インフォメーション・トランスフォーメーション・レイヤーで実行されるデータ処理の一部としてPerlを使用してソース・レコードおよびEndecaレコードを効率的に操作するパイプライン・コンポーネントです。PerlのフォージAPIには、ユーザーが記述する4つのプラグイン・メソッドとともにPerlマニピュレータをフォージにプラグインする方法が用意されています。データ操作を実行するためにEndecaに用意されているEDF名前空間のメソッドを、ユーザーが記述するメソッドから呼び出すこともできます。

pipeline (パイプライン)

「data pipeline (データ・パイプライン)」を参照してください。

precedence rule (優先順位ルール)

以前には表示されていなかったディメンション値を使用可能にするためのトリガーです。優先順位ルールを使用すると、不適切なナビゲーション選択肢の多くがユーザーに表示されなくなるため、情報の過負荷を軽減できます。

Presentation API (プレゼンテーションAPI)

「Endeca Presentation API (EndecaプレゼンテーションAPI)」を参照してください。

property (プロパティ)

レコードに関する情報が格納された名前/値ペア(プロパティ名とプロパティ値の組合せ)です。一般に、ソース・レコードは一連のプロパティにすぎません。プロパティは、エンド・ユーザーがレコード・セットまたは個々のレコードを検索またはナビゲートすると表示されるようになっています。プロパティを使用して、ディメンションおよびディメンション値を自動生成することもできます。

property mapper (プロパティ・マッパー)

ソース・データの個々のプロパティをGuided Searchアプリケーションでどのように処理するかを指定するために使用するパイプライン・コンポーネントです。Endecaの既存のディメンションまたはプロパティに明示的にマップすることも、Endecaの新しいディメンションまたはプロパティを作成してマップすることも、無視することもできます。

property name (プロパティ名)

プロパティ名はディメンションにマップされています。「property (プロパティ)」を参照してください。

property value (プロパティ値)

プロパティ値はディメンション値にマップされています。「property (プロパティ)」を参照してください。

R

range dimension (範囲ディメンション)

\$10-\$20、\$21-\$50、\$51-\$100などの離散範囲に編成できるディメンションです。範囲ディメンションは、離散値としてナビゲートする価格などのデータに便利です。

rapid update (高速更新)

「partial update (部分更新)」を参照してください。

raw data (ロー・データ)

「source record (ソース・レコード)」を参照してください。

record adapter (レコード・アダプタ)

Endecaデータ・ファウンダリにソース・データを読み込むために使用するパイプライン・コンポーネントです。

record assembler (レコード・アセンブラ)

様々なファイルから取得したソース・レコードを結合するために使用するパイプライン・コンポーネントです。

record cache (レコード・キャッシュ)

レコード・アダプタによって読み込まれたレコード・データの一時的なコピーを保管するパイプライン・コンポーネントです。一般に、レコード・キャッシュは、レコード・アセンブラとともに使用され、セカンダリ・データ・ソースからのデータを格納するように設定されています。

record manipulator (レコード・マニピュレータ)

レコードに関連付けられているデータを変更するパイプライン・コンポーネントです。これには、プロパティ、プロパティ値およびディメンション値のタグ付けの変更が含まれます。

record page (レコード・ページ)

1つのEndecaレコードを表す表示のことです。ほとんどのGuided Searchアプリケーションは、エンド・ユーザーがナビゲーションまたは検索結果ページで項目(Endecaレコード)を選択すると、レコードのプロパティのすべてまたはほとんどがレコード・ページに表示される設計になっています。「Endeca record (Endecaレコード)」も参照してください。

record query (レコード問合せ)

1つの固有のEndecaレコードをMDEXエンジンから取得する問合せです。

Record Relationship Navigation (レコード関連ナビゲーション)

レコード関連ナビゲーションは、より複雑なガイド付きナビゲーションを大規模に行えるようにするためのリレーショナル(正規化)データ用のEndeca Query Language (EQL)の拡張機能です。レコード関連ナビゲーションは、複雑なリレーショナル・データに対して使用するためのオプション・モジュールです。これを使用すると、問合せ時にユーザーがレコードを論理的に接続して、接続された関連に基づいてナビゲートできます。これは、EQLに基づいています。論理エンティティ間の相互関連は、索引付けプロセスで維持されるだけでなく、データのサブセットの属性に基づいて様々なタイプのエンティティを同時にナビゲートすることも可能にしています。

record search (レコード検索)

指定した検索用語(キーワード)と値が一致するプロパティまたはディメンションが少なくとも1つあるEndecaレコードのみを含めるようにレコード・セットをフィルタするキーワード検索のことです。レコード検索の結果は、ユーザー定義のキーワードに基づいた一連のレコードと後続の問合せ情報です。「dimension search (ディメンション検索)」も参照してください。

reference implementation (リファレンス実装)

一般的なページ(ナビゲーション、レコードおよび集計レコードのページ)およびこれらのページを構成するコンポーネント(ナビゲーション・コントロール、ナビゲーション記述子、レコード・セットなど)のスケルトン・サンプルとして用意されているGuided Searchサンプル・アプリケーションのことです。これは、MDEXエンジンの間

合せを作成して、問合せ結果からページを作成するためのガイドとしての目的専用に提供されています。「Guided Search application (Guided Searchアプリケーション)」も参照してください。

refinement dimension (絞り込みディメンション)

現在の問合せのレコード・セットを減らす、つまり絞り込むためにディメンション値を使用できるディメンションのことです。

refinement dimension values (絞り込みディメンション値)

ナビゲーション問合せを絞り込むためにユーザーが使用できる選択肢の次のセットのことです。ディメンション値からその子のいずれかにナビゲートすることにより、ナビゲーション問合せを絞り込みます。「child dimension value (子ディメンション値)」も参照してください。

Relationship Discovery (関連ディスカバリ)

「Endeca Relationship Discovery (Endeca Relationship Discovery)」を参照してください。

relevance ranking module (妥当性ランキング・モジュール)

レコードまたはディメンションの検索結果がエンド・ユーザーに表示される順序を開発者が制御できるようにする検索インタフェースの機能です。妥当性ランキング・モジュールでは、結果テキスト内のユーザーの問合せ用語の頻度など、事前に決定された基準に基づいてランキング・スコアが結果に割り当てられます。モジュールを組み合わせて、複雑なランキング戦略をインタフェースに作成することもできます。

Report Generator (レポート・ジェネレータ)

レポート・ジェネレータは、ログ・サーバーが作成したログ・ファイルを使用して、HTMLベースのレポートを生成します。

resident set size (RSS) (常駐セット・サイズ(RSS))

常駐セット・サイズ(RSS)とは、MDEXエンジン・プロセスに現在割り当てられて使用されている物理メモリ量のことです。MDEXエンジン・プロセスを実行すると、アクティブな実行可能コードおよびデータがRAMにロードされ、MDEXエンジンのRSSの一部となります。

詳細は、*Oracle Commerce MDEX Engine* パフォーマンス・チューニング・ガイドを参照してください。

resource collection (リソース・コレクション)

Guided Searchアプリケーションをホストするために使用する一連のリソースを表します。一般的には、様々なアプリケーション固有ロール(データ処理、MDEXエンジン・サーバー、ログの収集と分析など)が設定された一連のコンピュータで構成されています。

resource configuration (リソース構成)

アプリケーションが動作するリソース(リソース・プールのマシン、セグメント数、レプリカ数など)の構成を指定します。

results page (結果ページ)

ナビゲーションまたは検索問合せの結果として返された複数のレコードが要約されるページです。

rollup key (ロールアップ・キー)

Endecaの集計レコードが集計されるプロパティまたはディメンション名のことです。プロパティまたはディメンションの値が同じレコードが1つの集計レコードにロールアップされます。

S

Search Engine Optimization Module (検索エンジン最適化モジュール)

「URL Optimization API (URL最適化API)」を参照してください。

search interface (検索インタフェース)

プロパティおよびディメンションのどちらかまたは両方の名前付きコレクションのことで、それぞれでレコード検索が使用可能になっています。検索インタフェースには、妥当性ランキング・モジュールや部分一致など、検索動作を制御する機能が含まれる場合があります。このように、検索インタフェースでは、エンド・ユーザーが複数のプロパティやディメンションを同時に検索できます。

search query (検索問合せ)

「dimension search (ディメンション検索)」、 「record search (レコード検索)」 および 「navigation state search query (ナビゲーション状況検索問合せ)」を参照してください。

source record (ソース・レコード)

Guided Searchシステムに入力されるデータのことです。Guided Searchでは、様々な形式のソース・レコードがサポートされています。

SSL (SSL)

ネットワーク上を転送されるデータのプライバシーおよび整合性を保護するSecure Sockets Layerプロトコルです。基本SSLでは、Guided Searchコンポーネント間の通信を暗号化することによりセキュリティを実現します。相互認証SSLでは、暗号化に加えて、各コンポーネントが証明書を使用して他のコンポーネントに対して自分のIDを確認することを強制することにより、より高いレベルのセキュリティを実現します。「certificate (証明書)」および「certificate authority file (認証局ファイル)」も参照してください。

stacked authentication (スタック認証)

ユーザーのIDの認証に複数のログイン・モジュールを使用できるようにするEndecaアクセス・コントロール・システムの機能です。「file-based login module (ファイルベースのログイン・モジュール)」および「LDAP login module (LDAPログイン・モジュール)」も参照してください。

static ranking (静的ランキング)

ユーザー・インタフェースにディメンションおよびディメンション値が表示される順序のことで、MDEXエンジンのデフォルトが上書きされます。「dynamic ranking (動的ランキング)」も参照してください。

style (スタイル)

「dynamic business rule (動的ビジネス・ルール)」を参照してください。

supplemental object (補助オブジェクト)

基本ナビゲーション問合せに伴うオプション・オブジェクトです。補助オブジェクトは、マーチャンダイジング表示または分析表示を作成する際に使用される一般的なデータ構造です。各補助オブジェクトには、1つ以上のナビゲーション参照、1つ以上のレコードおよび1つ以上のオブジェクト属性が含まれます。

synonym (シノニム)

ディメンション値の表示や分類に使用される代替用語のことです。すべてのディメンション値の定義には1つ以上のシノニムが含まれています。「dimension value (ディメンション値)」も参照してください。

T

Term Discovery (用語ディスカバリ)

「Endeca Term Discovery (Endeca用語ディスカバリ)」を参照してください。

Tools and Frameworks (ツール&フレームワーク)

Oracle Commerceツール&フレームワークでは、複数のチャネル経由で動的コンテンツおよびコンテキストに沿ったコンテンツをエンド・ユーザーに表示するWebアプリケーションを開発できます。ツール&フレームワークの主なコンポーネントは次のとおりです。

- エクスリエンス・マネージャを備えたOracle Commerce Workbench: ビジネス・ユーザーが複数のチャネルまたはアプリケーションで動的コンテンツ構成を作成および管理できるWebベースのツールです。
- Oracle Commerceアセンブラ: MDEXエンジンに対する問合せを収集および送信して、結果データをすぐに表示可能なコンテンツ項目としてアプリケーションに返すシステムです。
- Discover Electronics参照アプリケーション: Guided Searchアプリケーションのベストプラクティスを示すアプリケーションです。


U

user entitlement filter (ユーザー権限付与フィルタ)

認証済ユーザーに対してEndecaアクセス・コントロール・システムで作成されるレコード・フィルタのことです。このフィルタには、Guided Search実装のデータに対するユーザーのアクセス権が定義されており、MDEXエンジンは問合せ時にこれを使用してユーザーに表示権限があるレコードのみを返します。

URL Optimization API (URL最適化API)

URL最適化APIでは、インターネット検索エンジン用に最適化されたアプリケーションURLを作成できます。特にこのAPIでは、URLを短縮および正規化して、検索およびナビゲーションのキーワードをURLに追加できます。結果のURLは、インターネット検索エンジン用にさらに最適化され、フロントエンド・アプリケーション・ユーザーがさらに理解しやすくなります。

 注: このAPIは検索エンジン最適化モジュール(SEO: Search Engine Optimization)と呼ばれる場合もあります。

V

virtual process size (仮想プロセス・サイズ)

Dgraphの仮想プロセス・サイズ(またはアドレス空間)とは、任意の時点でオペレーティング・システムによってMDEXエンジン・プロセスに割り当てられている仮想メモリーの合計量のことです。これには、Dgraphコード、ディスク上のMDEXエンジン・データ、Dgraphキャッシュおよびすべての一時作業領域が含まれます。

詳細は、*Oracle Commerce MDEX Engine* パフォーマンス・チューニング・ガイドを参照してください。

「resident set size (RSS) (常駐セット・サイズ(RSS))」および「working set size (WSS) of the Dgraph (Dgraphのワーキング・セット・サイズ(WSS))」も参照してください。

W

Workbench (ワークベンチ)

Oracle Commerce Workbenchは、ビジネス・ユーザーおよびマーチャンダイザがGuided Searchアプリケーションの一部を構成したり、システム管理者がGuided Searchの実装を構成および管理したりできるようにするためのWebベースのツールです。

Guided Searchの実装のすべての面を構成する高機能の開発環境を提供するデベロッパー・スタジオとは異なり、ワークベンチでは、よく使用する日常の構成および保守タスクを含む、より小さなセットを対象としています。このように対象を絞り込んでいるため、ワークベンチの規模を小さくしてWebベース・アプリケーションの範囲に収めることができます。

working set size (WSS) of the Dgraph process (Dgraphプロセスのワーキング・セット・サイズ(WSS))

Dgraphプロセスのワーキング・セット・サイズとは、物理メモリーに常駐するプロセスの仮想アドレス空間のページの集まりのことです。ワーキング・セットのページは最近頻繁に参照されたページです。つまり、Dgraphのワーキング・セットはDgraphプロセスが現在消費しているメモリー量を表しています。これは、ページングを回避するために必要なメモリー量です。

次にワーキング・セット・サイズ(WSS)について説明します。

- WSSは常にMDEXエンジンの仮想プロセス・サイズの値以下ですが、計算することはできません。
- 実験でWSSを特定する方法: (RAMの追加または競合プロセスの除去により)RSSを増加させるとMDEXエンジンのパフォーマンスが向上する場合は、以前はWSSがRSSよりも大きかったことを意味します。これがパフォーマンス悪化の原因であった可能性が高いと考えられます。
- WSSのサイズがRAMの容量に接近するか超え始めると、ディスクへのページングが開始されてパフォーマンスが急速に悪化します。

詳細は、*Oracle Commerce MDEX Engine*パフォーマンス・チューニング・ガイドを参照してください。

Z

zone (ゾーン)

「dynamic business rule (動的ビジネス・ルール)」を参照してください。

